

包装資材 用途幅広く



本社工場でフィルム製品の最終確認を行う男性作業員=かすみがうら市下稲吉



■101■

シャンプーの詰め替え用パックや点滴の輸液バッグ。合成樹脂製の包装資材や加工品を製造・販売する東洋平成ポリマーは医薬品や食品、建材、物流など幅

広い用途の製品を手掛ける。萩原邦章社長は取引先の要求に適合する製品づくりを重視し、「フットワークが良く、トータルクオリティの良い会社」を掲げる。

同社は2007年、特殊合金鉄メーカーの東洋電化工業（高知市）が完全子会社の東洋ケミカル（同）と平成ポリマー（かすみがうら市）を合併し、現社名に変更したことで誕生。18年に合成樹脂繊維大手の萩原

東洋平成ポリマー

フィルムやクロス展開

工業（岡山県倉敷市）が株式を取得し、完全子会社となった。

東洋平成ポリマーが展開するのは、フィルム事業とクロス事業だ。

フィルム事業は、ポリエチレン（PE）やポリプロピレン（PP）を主原料とする合成樹脂でできた原料ペレットを「製膜機」で溶かし、円形の「ダイ」と呼ばれる部分から薄いフィルム状に押し出す。それに空気を入れることで一定の大

きさまで膨張させ、袋状に成形するといったものだ。

この事業は「原料選びが大事」（萩原社長）。硬さなどの特性が異なる樹脂を選ぶことにより、強度や収縮度が変わるといふ。さらに溶かした樹脂をダイから押し出す「押出機」を複数組み合わせることで、多層化したフィルムを生産することも可能だ。

具体的には熱を加えると縮む「ポリエチレンシュリンクフィルム」や、医薬品やシャンプーの詰め替えパックなどに用いられる単層多層の「シーラントフィ

ルム」といった製品を手掛ける。

一方、クロス事業は高密度PEとPPを主原料とする原料ペレットでフィルムを作り、短冊状に裁断して細く伸ばすことのできる、強くて軽い糸「フラットヤーン」を製造する。レジャーシートや地下のガス管といった埋設物の位置を示す「埋設標識シート」、フレコンバッグなどを展開し、両事業を掛け合わせた製品も持つ。

萩原工業の会長も務める萩原社長は、東洋平成ポリマーについて「売り上げ」規模を追わない（取引先の要求に応じる）開発型の会社だ」と語る。

あなたの暮らしをより豊かで快適に包みます。同社の経営理念を胸に、市場の求めに応じた製品づくりを力を注ぐ。

（小野寺晋平）

感性豊かで独創性高く

萩原邦章社長

こんな人材が欲しい



ケミスト（化学者）に加え、工場のモノのインターネット（IoT）を進めるために必要となる電気制御に詳しい人材を求めています。パーソナリティ（個性）としては感性豊かな人、クリエイティビティー（独創的）の高い人です。企業は世間からの預かり物です。サービスを通して世のため人のためにベネフィット（恩恵）を提供することで生かされています。私たちは継続的な非連続を常に続けていかないとけません。改善をこつこつと続ける中で革新が出てくるのです。日々の改善なくして革新なしだと思っています。

■企業データ■

- 〈設立〉1943年7月
- 〈資本金〉1億円
- 〈本社〉かすみがうら市下稲吉
- 〈従業員〉194人（2月28日現在）
- 〈売上高〉41億8600万円（2020年3月期）
- 〈工場〉本社工場（かすみがうら市）、福島工場（福島県いわき市）、高知工場（高知市）